

令和3年度ヒメビウンカ(越冬前世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表1 ヒメビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率－1（定点）

	調査地点	（供試個体数）	保毒虫率（％）
東部地域	加西市別府町	（65）	0
	加西市中野町	（76）	0
	多可町加美区	（94）	0
	丹波市山南町	（94）	0
	加古川市志方町	（77）	1.3
西部地域	神河町	（94）	0
	宍粟市山崎町	（94）	0
	佐用町	（94）	1.1
	上郡町	（76）	1.3
	平 均		0.4

供試虫：令和3年9月2日、3日、15日に水稲から採取した幼虫を供試。
検定方法：簡易エライザ法

表2 ヒメビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率－2（その他の地点）

	調査地点	（供試個体数）	保毒虫率（％）
西部地域	姫路市香寺町	（94）	1.1
	たつの市新宮町	（94）	2.1

供試虫：令和3年9月15日に水稲から採取した幼虫を供試した。
検定方法：簡易エライザ法

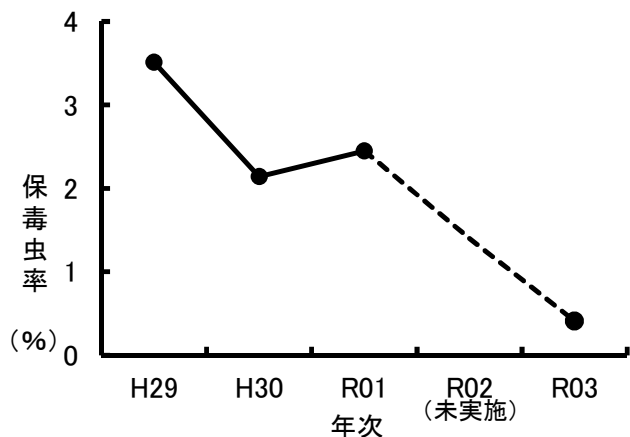


図 ヒメビウンカ(越冬前世代)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移(定点平均)



写真 ひこばえでみられるイネ縞葉枯病の症状
黄化(左)、出すくみ(右)

・ヒメビウンカが保毒したイネ縞葉枯ウイルスは経卵伝染して、越冬前世代(秋)から越冬世代(冬)を経て第1世代(春)へと受け継がれるため、翌年の縞葉枯病の発生源となる。

ヒメビウンカ(越冬前世代、秋)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は減少傾向にあり、今回1%以下であった(図)。越冬前世代虫(秋)の保毒虫率として警戒が必要な目安である7%以上を示した地点はなかった(表1、2)。

・本田またはひこばえで症状(写真)が見られた場合は、越冬世代虫(冬)の密度を下げる必要がある。冬の対策として水田の耕うんや畦草の管理を行う。第1世代虫(春)の増殖場所となる小麦ほ場が周辺にある場合は特に対策を実施する。

詳しくは、病害虫防除所webサイト「イネ縞葉枯病防除マニュアル」ならびにYouTube「ヒメビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」を参照する。

・「イネ縞葉枯病防除マニュアル」のURL

<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf>

・YouTube「ヒメビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」のURL

<https://www.youtube.com/watch?v=yeVWNWSuL8U>